

〔目的〕地球規模での環境問題に対し、生活者として貢献する道を見出し、生活方法の改善・改良に資することができればと考え、当研究所では既に家庭ごみ計量調査及び環境問題に対する意識調査を実施した。その結果、家庭ごみ発生量の多少、地球環境保全に対する態度は生活者の意識の有無が大きな要因であることが明らかになった。そこで今回は、ごみ・環境問題に対する家庭内環境教育を把握する一つとして、アンケート調査を行った。

〔方法〕調査対象：子は東京都渋谷区立の小学校2校に在籍する3年生児童136人、親は対象児童の親136人

調査内容：本調査はA、B2つの調査から成る。調査Aは子を対象に、ごみ・環境問題に対する意識を把握することを目的とし、「ごみ」「買物」「リサイクル」「資源」に関する24問のアンケートを行った。調査Bは子と親を対象に「ごみ」「日常生活」「環境」に関する35問のアンケートを行った。子には家の人から聞いたものであるか、親には子に話したり指導したことがあるかをたずねた。子と親は期間をあけて調査を実施した。

〔結果〕調査A：「ごみ」「買物」「リサイクル」「資源」のいずれの分野においても、ごみ・環境問題に対する子の関心は高かった。とりわけ日常生活に関する項目についてはかなり高い意識があることが見いだされた。

調査B：①「ごみ」「日常生活」「環境」のいずれの分野においても親子の回答率は同じ傾向を示した。②「ごみ」「日常生活」分野において、親子とも高い回答率を示した項目は生活習慣に関わるものが多く、家庭における教育が、いわゆるしつけの面から浸透しつつあると思われる。③「環境」分野における回答率は全ての項目で子が親を上回った。